

あかね!

ひたひたずり (333)

あかね8歳
お前の指圧じゃねえ...
乗っていいの? (指圧)

あかね15歳
あだしんぼの重たいの...
ちやうどいい位だ

あかね...
あーい! 背中押してくるから

あだしんぼ踏もうか?
さー...



創業36年のアットホームな居酒屋

【板橋・書記・武田栄一 通す。】東武東上線中板橋駅北口から歩いて2分ほどに「居酒屋 じゅうにつぼ」はありま

営業して36年のマスターとママが経営している、アットホームな居酒屋です。マスタ

「も「接客は家族みたいな仲間みたいな雰囲気大切にしています」とのことです。お店の中は「おひとり様」でもくつろげる空間となっております。

おすすめメニューは牛すじ煮込み、豚の角煮、鰯の竜田揚げのことです。玉子焼きも人気の一品。オムレツ風で食べると中にコリコリとしたものが、ネギとたくあんが入っています。

「とこ」で「じゅうにつぼ」という店名の通り12坪の広さではなく、14坪だそうです。

赤ちんぽ

(646)



おひとり様でもくつろげる 14坪のほっこり空間

飲み物も日本酒・焼酎が充実しています。またメニューの値段は必ず5円が付きま す。これはもちろん「縁」があるようにです。

〈メニュー〉

生ビール(中)	495円
瓶ビール	545円
酎ハイ	395円
日本酒	515円
焼酎	515円
各種焼き鳥	145円
牛すじ煮	515円
豚の角煮	615円
鰯の竜田揚げ	515円
玉子焼き	415円

営業時間 17時半〜24時
定休日 月曜日
板橋区中板橋29-17
駐車場 なし
☎ 3962-7107

詰将棋

持駒 王、金、歩、角

6	5	4	3	2	1
				王	
				金	
				歩	
				角	

幼少のころ、雨戸の節穴を通った光が障子紙に外の風景を写しているのを不思議な気持ちで眺めていた。ピンホールカメラの原型なのだが、これが写真への興味の出発点だったのかもしれない。

中学では、理科実験室にて



塗装 永田保

忘れえぬこと

銀塩写真よ永遠に 障子紙の風景が原点

「秋の読書週間、読め、思へ、文部大臣荒木貞夫」とあったボスターを見て腹が立った。陸軍大将でもある荒木が読書しているのと思案しろと言っているのだが、「思う」ことは心の営みであって、命をされることではないからであった。後に森井は昭和天皇が重体となったとき、明治学院大学学長として、大学の白金票は自粛しないと声明を発表している。

た街をどのように切り取って写真に仕上げるかが、腕の見せどころであり、ワザになるのである。建物の建て替えの時も同じような悩みに出会うことになる。設計屋さんごとのような形にあそこに納めようかとさんざんに悩むのだ。写真の特性はその記録性にある。凸レンズで結像した画面を科学的な処理をほどこし銀塩(きんえん)写真としてフィルム面に転写する手続きで写真を見ることが出来るのだが、そのテクニックが日本に来てまだ200年足らずにしかならない。あと何百年写真として残ってくれるか未知数である。

そしてデジタルの世界になってしまった。印刷のスピード、利益性だけで銀塩写真が消えてしまうのが不思議でない。

(大田)

チヨット一服(956)

「佐賀牛切り落とし、特盛九州産豚切り落とし、老舗肉屋の特製ハンバーグ、北海道近海産毛ガニ」。これらはふるさと納税推進をうたうサイト、「ふるさと」に出ている人気返礼品だ。高額返礼品の見直しがあったが、こうした特産品は相変わらず人気がある。

返礼品がないふるさと納税もある。東大和市では空襲を受けた「旧日立航空機株式会社 社寮電所」保存の寄付金をふるさと納税で募集している。返礼品に期待させて寄付金を募るのではなく、戦争遺跡保存に寄付者の意思がストレートに繋がるところが素敵だと思う。

たまたま

1938年の秋、高校生森井真は渋谷の大盛堂書の

店、「秋の読書週間、読め、思へ、文部大臣荒木貞夫」とあったボスターを見て腹が立った。陸軍大将でもある荒木が読書しているのと思案しろと言っているのだが、「思う」ことは心の営みであって、命をされることではないからであった。後に森井は昭和天皇が重体となったとき、明治学院大学学長として、大学の白金票は自粛しないと声明を発表している。

DVD ブルーレイ

『最高の人生の見つけ方』、『世界一キライなあなたに』みたいに、登場人物に感情を移入させて死なせてしまうストーリーが鉄板だ。今回お勧めするのは『100歳の少年と12通の手紙』。2009年のフランス・ベルギー・カナダ合作映画で、フランスの劇作家エリック・エマニュエル・シュミットが自身のベストセラー小説を自ら脚色・監督した作品。わずか10歳で死を宣告された少年が、宅配ピザの配達員に会った口は悪いが心の優しい女性と共に過ごした12日間が描かれている。好奇心旺盛な少年オスカを演じるアミールの演技力は素晴らしい。オスカを見る守るローズ役を、

100歳の少年と12通の手紙

監督/エリック=エマニュエル・シュミット

死を宣告され人生の意味を考える

移入させて死なせてしまうストーリーが鉄板だ。今回お勧めするのは『100歳の少年と12通の手紙』。2009年のフランス・ベルギー・カナダ合作映画で、フランスの劇作家エリック・エマニュエル・シュミットが自身のベストセラー小説を自ら脚色・監督した作品。わずか10歳で死を宣告された少年が、宅配ピザの配達員に会った口は悪いが心の優しい女性と共に過ごした12日間が描かれている。好奇心旺盛な少年オスカを演じるアミールの演技力は素晴らしい。オスカを見る守るローズ役を、

2013年に寺井広樹が提唱したとされる「涙活る(いかつ)」。意識的に涙を流すことにより緊張や興奮を促す交感神経が優位な状態から、リラックスや安静を促す副交感神経が優位な状態に切り替わる仕組みを利用したストレス解消を図る活動のこと。今では各地で様々な涙活イベントが開催されているらしい。

ただ、効果があるのは悲しみや感動による情動の涙で、目を潤すための涙やタマネギを切った時に出る角膜炎の涙には、ストレス解消効果はないとのこと。こうなると思えるのが手っ取り早い。『死ぬまで』に『10のこと』や『最高の人生の見つけ方』、『世界一キライなあなたに』みたいに、登場人物に感情を移入させて死なせてしまうストーリーが鉄板だ。今回お勧めするのは『100歳の少年と12通の手紙』。2009年のフランス・ベルギー・カナダ合作映画で、フランスの劇作家エリック・エマニュエル・シュミットが自身のベストセラー小説を自ら脚色・監督した作品。わずか10歳で死を宣告された少年が、宅配ピザの配達員に会った口は悪いが心の優しい女性と共に過ごした12日間が描かれている。好奇心旺盛な少年オスカを演じるアミールの演技力は素晴らしい。オスカを見る守るローズ役を、